

子どもの育ちを 社会で支える

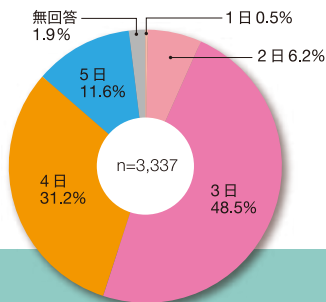
子育て支援

子どもや子育て家庭を取り巻く環境は大きく変化しています。保育所の待機児童解消を進めるとともに、多様な生き方・働き方を支える仕組みを提案します。

- 身近な場所で一時保育や小規模保育を展開します
- 短時間勤務でも保育所を利用できるよう基準を緩和します
- 子育ての孤立や虐待を防ぐために身近な場所に子育てひろばをつくります
- 保育士不足の解消のために「潜在保育士」が働きやすい環境をつくります
※潜在保育士：資格を持ちながら保育の現場で働いていない保育士

■就労を望む母親が
パートタイム・アルバイトを希望する場合
希望する週あたりの勤務日数

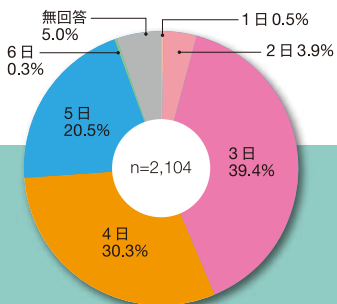
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kodomo/shien-new/data/needs/needs-02.pdf>



2013年度横浜市子ども・子育て支援事業計画の
策定に向けた利用ニーズ把握のための調査より

■潜在保育士が
非常勤、パートタイムを希望する場合
希望する週あたりの勤務日数

<http://c.rakuraku.or.jp/docs/news/183/5siryou3.pdf>



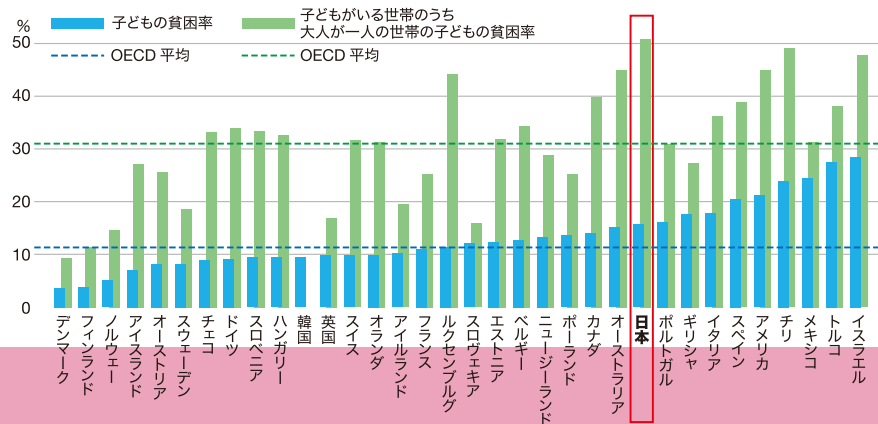
2013年度神奈川県保育士実態調査結果より

子どもの貧困は6人に一人。
不登校、引きこもり、ニートなど
孤立化する子ども・若者の課題が浮かび上がっています。
障がいのある子どもも含めたすべての子どもの学びと育ちを
保障する多様な場をつくります。

- 子どもたちへの生活支援や学習支援を充実させます
- 障がいのある子どもが地域で育ち、学べるしくみをつくります
- 地域の居場所をつくり、寄り添い型支援を展開します

■OECDによる2010年子ども相対的貧困率の国際比較

http://www6.cao.go.jp/youth/whitepaper/h26honpen/pdf/b1_03_03.pdf



日本は子どもの相対的貧困率は加盟国34か国中10番目に高く、OECD平均を上回る。
子どもがいる現役世帯のうち大人が1人の世帯の相対的貧困率は加盟国中最高。